

緊急避妊の方法があることをご存知ですか？

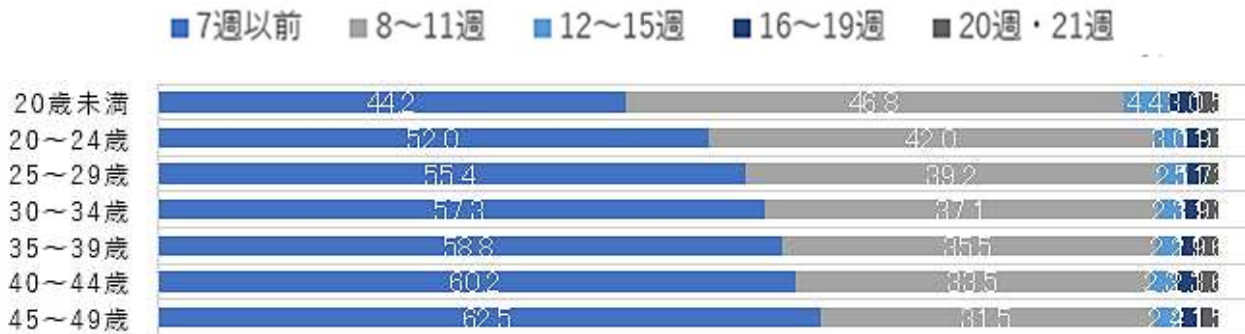
◇ 予期せぬ妊娠

新型コロナウイルス感染拡大により一斉休校措置が取られた 2020 年春以降、各自治体の相談窓口へ 10 代を中心に若年層からの妊娠に関する相談が急増しました。外出自粛により自宅でパートナーと過ごす時間が増えたこと、SNS を通じて性被害に巻き込まれた、身近な相手から性暴力を受けたことなどによる「予期せぬ妊娠」の相談です。

◇ 人工妊娠中絶の現況

日本では 1 年間で推計約 61 万件の「予期せぬ妊娠」があると言われています（2019 年大須賀穰ら）。人工妊娠中絶（以下、中絶）件数は年々減少しているものの、2019 年の統計では年間約 16 万件（1 日で 430 件）、10 代では 1 日あたり 35 件の中絶が行われています（令和元年度厚生労働省「衛生行政報告例の概況」）。

下記のグラフは年齢階級別の中絶に至った妊娠週数の比較です。年齢が若い人ほど、妊娠週数が進んでから中絶を行っており、より身体に負担の掛かる手術となっています。



令和元年度厚生労働省「衛生行政報告例」

◇ 乳幼児虐待につながる

一方、乳幼児虐待事件が時折報道されていますが、心中以外の乳児虐待死の最大の要因として「予期せぬ妊娠」が挙げられています。最も多いのは生後 0 日目。その加害者は実母が 9 割を占め、年齢は 10 代が 3 割と最も多く、その多くが妊婦健診未受診です（令和 2 年厚生労働省第 16 次報告）。10 代の女性が妊娠について誰にも相談できずに出産・遺棄に至る、または他者に妊娠を知られたくない女性が一人で出産し遺棄に至るなど妊娠自体が他者に気づかれていないという事例が少なくありません。医療を受けず、周囲からの支援も受けられない中での出産は、女性にとって大きな健康被害に直面することなのです。

◇ 日本は不確実な避妊が主流

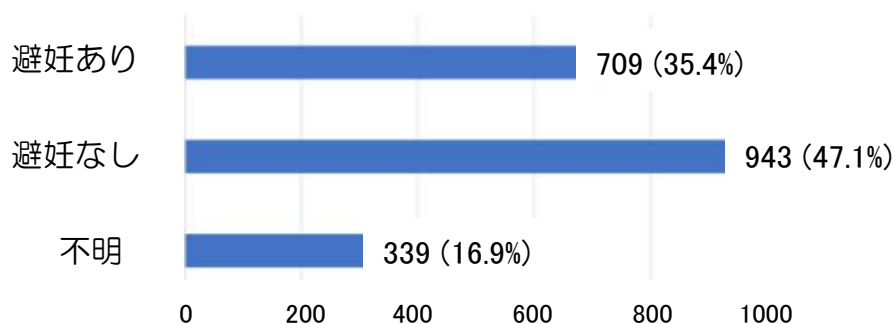
不確実な避妊法



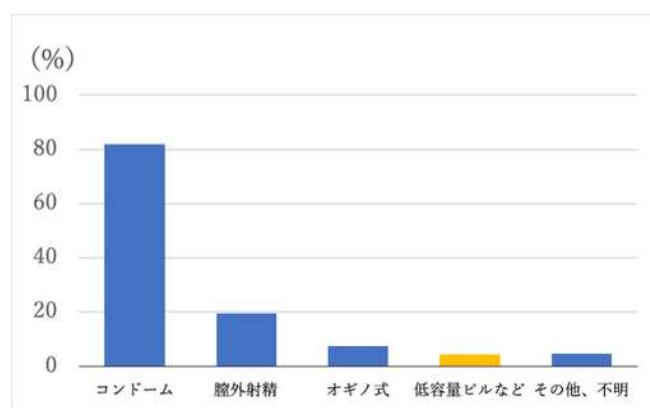
- コンドーム
- 腔外射精
- オギノ式

排卵日は不安定であり安全日というものはありません

下記は 2020 年のある 1 ヶ月間全国の主な施設を対象に行われた調査ですが、中絶となった妊娠例の避妊の有無を見ると、**避妊ありは 35.4%**、その避妊法は**コンドーム 74.8%**、**膣外射精 34.6%**（重複あり）と日本人全体の避妊法とほぼ同様の使用率でした。



令和 3 年厚生労働特別研究・COVID-19 に関連する母子保健領域の研究報告シンポジウムより



日本における避妊の内訳

2016 年日本家族計画協会のデータより

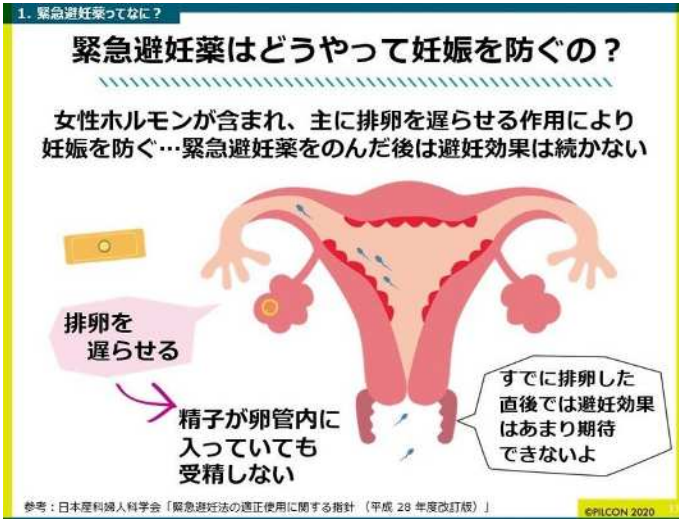
日本ではそもそも男性主体の sex が背景にあり避妊を言い出せない人も多いでしょう。日本人の避妊法の主流はコンドーム(82%)ですが、破損や脱落など避妊法としては不確実です。確実性の高い方法として**低用量ピル**が推奨されていますが、避妊方法として使用しているのは**4%程度**です。一方、欧米諸国では女性主体の避妊法として低用量ピルが主流となっており、コンドームは主に性感染症予防目的で使用されています。

また、「性」について大人が子供に語るものがタブー視されてきた日本では身を守る手段を学ぶ性教育が不十分であることも予期せぬ妊娠の一因と考えられます。

◇ 緊急避妊は時間との戦い

避妊なし、またはコンドームや膣外射精など不確実な避妊法では予期せぬ妊娠は避けることができません。**最終手段**として緊急避妊薬、子宮内避妊器具などがありますが、ここでは前者のお話をします。

緊急避妊薬（商品名ノルレボ錠 1.5mg、レボノルゲストレル錠 1.5mg「F」）はアフターピルともよばれ、排卵を抑制したり遅らせたりする作用があります。そのため、内服後に性交を持つと妊娠阻止できる可能性は低くなるので次回月経まで性交を控えることが必要です。



緊急避妊薬が必要な時とは

- 避妊なしの性交
- コンドームの破損、脱落など不適切な使用
- 膣外射精
- 低用量ピルの飲み忘れ
- レイプや性暴力被害

性交後 **72 時間以内に内服すれば妊娠阻止率約 85%**、24 時間以内であれば 95%であり飲むのが早いほど効果が高くなります。100%妊娠を回避することはできず、性感染症を予防する効果はありませんが、予期せぬ妊娠を防ぐことは乳幼児虐待を防ぐだけでなく、今後の人生を主体性を持って生きていく上で欠かせないことだと思われま



WHO（世界保健機関）は「思春期を含む全ての女性が安全に使用できる薬」であり医学的管理下に置く必要はないとされ、世界では 76 カ国で薬局での薬剤師による販売、19 カ国でドラッグストアなどで販売されていますが、日本では医師の診察と処方箋が必要で費用も 6,000 円～12,000 円と高額なのが現状です。そして、繰り返さないためには低用量ピルなどを継続して服用することが大切です。

☆ このコラムを読んで下さった皆さん

もし上記のようなことがご自身に発生したら勇気を持って周囲の大人、学校の保健室の先生に相談を。またはお近くの産婦人科の門を叩いて下さい。産婦人科は決して敷居の高い所ではありません。また、思春期の娘さんをもつ親御さん。日頃から娘さんの身体や体調の変化に意識を向けて下さい。そして性暴力被害に遭われた方。警察への届出が難しい場合は「性暴力被害者サポートセンターこうち」という相談窓口があります。ひとりで悩まず是非相談

して下さい。

性暴力被害者サポートセンターこうち

◆相談電話 CORAL CALL (コーラルコール)
080-9833-3500 (専用電話)
0120-835-350 (フリーダイヤル)



(文責：小松淳子 2021年9月)